

令和2年度 第2回学校と福祉機関の連携に係る検討会議 議事録【要約版】

日 時：令和2年11月9日

10：00～12：00

場 所：兵庫県民会館 902号室

参加者：20名

**協議事項 (1)実施状況調査の結果を踏まえた連携マニュアル(案)について
(2)理解啓発研修の内容について**

- 各市町や各学校の状況が多様なので、マニュアルという名前ではあるが、モデルという意味合いで捉え、実情に合わせたアレンジや工夫が大事になる。ある程度学校等に浸透し、アレンジしたものが共有できると、さらなる実践につながる。
- 事業所が学校にお迎えに行くとき、学校は特別支援学級の子どもの把握はできても、通常の学級の子どもの場合はなかなか事業所の方と会う機会がなく、把握が難しいという課題がある。
- 特別支援教育コーディネーターの役割が非常に大きくなっている。特別支援学校としても、アドバイスや支援の方策等を丁寧に学校に説明できれば、さらにこのマニュアルが有効に使えると思っている。
- 教育委員会からのマニュアルが出てきているので、今後は、連絡会や市町の福祉部局が窓口となって、事業所を束ねたり情報共有する窓口をつくったりすることが必要になるかと思う。
- 放課後等デイサービス事業が制度化されたのは約10年前であるが、最近は急速に制度の利用が増えているので、本来の役割を改めて考える必要がある。
- 学校と事業所との連携がうまく進めば、子どもの状態が落ち着くというメリットがある。
- 保護者の同意を得て連絡帳を使ったやり取りをしようとしている。保護者も事業所も学校も、それが負担にならないようにしたい。
- 学校と事業所と保護者が三位一体になって連携を取ることがうまく機能すれば、子どもの成長が望めると期待している。特に、三者面談や事業所連絡会の手配が、要になると思っている。

総括

- トライアングルの中心にいるのは子どもであり、子どもの居場所であるということを学校や各市町組合教育委員会、福祉部局に関わる私たちは絶対に忘れてはいけない。子どもたちが安全・安心に過ごすためにトライアングルがあり、そのために、連携でつないでいる。